

(社) 日本原子力学会 標準委員会 発電炉専門部会
第1回 確率論的安全評価分科会 (P1SC) 議事録

1. 日時 平成12年6月1日(木) 10:00~12:15

2. 場所 原子力学会 会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 平野(主査)、古田(副主査)、矢作(幹事)、小林、佐藤、福田、中井、成宮、藤本、松本、村松、森田(12名)
(代理出席委員) 藤井(山下委員代理)(1名)
(傍聴者) 榎本、増田、大山(3名)
(事務局) 太田、市園

4. 配布資料

P1SC1-1 標準委員会の活動状況について
P1SC1-2 委員名簿(委員会、専門部会、分科会)
P1SC1-3 分科会主査他の選任方法について
P1SC1-4 標準委員会規程
P1SC1-5 標準委員会運営内規(案)
P1SC1-6 標準委員会・部会規程、内規の解説
P1SC1-7 標準委員会活動の基本方針(案)
P1SC1-8 発電炉専門部会の活動方針(案)
P1SC1-9 停止時PSA実施手順の標準化の進め方(案)
P1SC1-10 同上 —— 作業の進め方の詳細 ——

参考資料

P1SC1-参考1 標準委員会委員会関連欧文名称及び略称
P1SC1-参考2 標準制定までの経過
P1SC1-参考3 日本原子力学会 標準委員会 標準作成手引き(案)
P1SC1-参考4 (社)日本原子力学会 投稿規定
P1SC1-参考5 日本原子力学会誌 投稿の手引
P1SC1-参考6 標準委員会等の開催予定と実績

5. 議事

(1) 経緯の説明

事務局より標準委員会設立に至るまでの経緯及びこれまでの活動状況の説明を行った。(P1SC1-1)

(2) 出席者自己紹介

出席した委員、及び傍聴者がそれぞれ自己紹介を行った。(P1SC1-2)

(3) 主査の互選

事務局より主査選任方法の説明の後、選任方法について出席委員全員の了解が得られた。(P1SC1-3)

出席委員全員(代理含む)による無記名投票が行われた。その結果、平野委員が主査に選出された。

投票結果; 平野委員 得票 12票

古田委員 // 1票

(4) 副主査、幹事の指名

平野主査により、古田委員が副主査に指名された。また、主査、副主査の協議により、矢作委員が幹事に指名された。

(5) 標準委員会規程、運営内規(案)の説明

事務局より標準委員会規程、運営内規(案)、部会分科会等規定(案)の説明を行った。コメント等について事務局まで連絡することとした。(P1SC1-4, P1SC1-5, P1SC1-6)

(6) 標準委員会活動の基本方針(案)の説明

事務局より標準委員会活動の基本方針(案)の説明を行った。主な質疑等を以下に示す。(P1SC1-7)

・資料2頁、標準の階層性について、当学会標準の中での階層性が、国の基準類を含めての意味かの質問に対し、事務局より、学会標準の中での階層性を述べている旨の回答があった。

(7) 発電炉専門部会の活動方針(案)の説明

矢作委員より説明があり、議論が行われ、基本的に本方針に従って活動を進めていくことが了解された。コメント等について事務局まで連絡することとした。(P1SC1-8)

(8) 分科会の進め方について

藤井委員代理より説明があり、議論が行われた。主な意見を以下に示す。(P1SC1-9)

- ・ 原安協レベル1 P S A 手順書(以下、原安協手順書)自身は、公開の場で審査されたものではないので、引用する場合には、内容そのものを記載するなど留意する必要がある。
- ・ 原安協手順書を参考にするのはよいが、最新知見を反映する観点からも新文章を起こすべきである。東大の近藤先生からも見直しの要請を受けている。
- ・ 当分科会が作成する停止時 P S A 実施手順は、解説などを含めて、原安協手順書と同程度の分量になると思われる。
- ・ 本手順書は、階層構造上、「手引き」に相当するものである。
- ・ 原安協手順書は、適用の際の柔軟性に特徴があるが、逆に、どのようにも解釈できて、適用に際して迷うことがある。迷わなくて良いようにするにはサンプルを付ける等付録や解説をより一層充実させる必要がある。
- ・ データベースなど、原安協手順書に含まれる内容について、学会標準として見直しすることもあり得る。
- ・ 外部事象の除外など、手順書の記載対象範囲については、解説などで記載することになる。この議論は必要である。範囲の拡大についての展開は、必要が認められた場合に検討することとしたい。
- ・ 本手順書 (PSA) の目的は、評価結果の精度との関連で重要であり、手順書骨子の作成の際、十分に議論されるべきものである。
- ・ 本資料の「安全評価は、保守性が必要・・・」は、「保守的な評価でも良い」程度の書き方にすべきである。

(9) 作業の進め方の詳細

藤本委員より説明があり、議論が行われ、当面はこの分担で文献調査作業に着手することが了解された。主な意見を以下に示す。(P1SC1-10)

- ・ 関連文献の調査結果は、そのものは手順書本文には記載しない。内容によっては、解説などに引用される程度。
- ・ 原安協では、関連データ集として別冊にした。
- ・ 資料中の分担は、所属名ではなく委員名とするべきである、また、資料の出所も委員名であるべきでは、との意見があり、専門部会で議論することとした。
- ・ 調査資料のSECY-00-0007は、停止時 P S A 結果に対するNRCの最新見解が述べられていると考えられ、調査の順番としては、これを優先するのがよいとの意見があり、これに対して、この資料は、NRCの政策ではなく、主に今後の作業提案が述べられているので、必ずしも優先させる必要はないとの意見が出された。
- ・ 2～3年前、NRCは、旧SECYにおいて停止時 P S A 実施の必要性を述べるとともに、現実、停止時 P S A 手法は確立していないと主張していたと記憶している。
- ・ 文献調査は新しいものから着手するというやり方もあり、このやり方の方が効率的ではないか。
- ・ 文献調査分担は、手順案執筆分担を考慮して決めたものではない。
- ・ 手順書作成期限は、H 1 3 年度末であるが、P S R での停止時 P S A は、H 1 3 年度から開始する予定である。
- ・ 文献調査には早急に着手する必要がある、当面はこの分担で作業に着手し、適宜文献を追加する。
- ・ 「NUREG/CRは大分量であり、NUPEC安解所での検討結果があれば、参考にしたい。」「IAEA関連文献など邦訳があれば、有り難い。」との意見があり、NUPECにグランドガルフ発電所とフランスの結果の検討資料があり、IAEA関連文献でも公開されていれば、開示可能であることから、調べてみることにした。

(10) 標準作成の手引

- ・ 事務局から、標準作成の手引について紹介があった。

6. 今後の予定

第2回分科会を、7月17日(月)、13:30～16:30で開催することとした。

以上